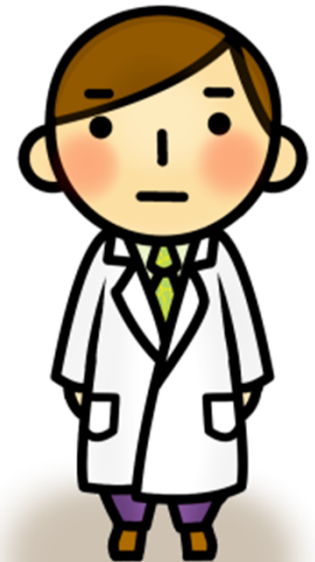


認知症のお薬について



平成28年11月26日
薬剤科 秋吉 史久

認知症のお薬について

今現在、効能・効果に「認知症」と記載されているのは
2つ分類の4種類の成分しか存在しません。

分類	成分名	商品名	投与経路
コリンエステラーゼ 阻害薬 (ChE阻害薬)	ドネペジル	アリセプト®	経口
	ガランタミン	レミニール®	経口
	リバスチグミン	リバスタッチ® イクセロン®	貼付
NMDA受容体 拮抗薬	メマンチン	メマリー®	経口

これらのお薬は根治治療ではなく、あくまで進行を抑制
することが目標となります。

認知症の診断方法



本人または家族による物忘れなどの訴え



問診



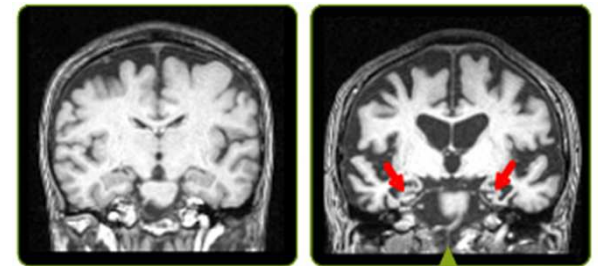
認知症の機能検査

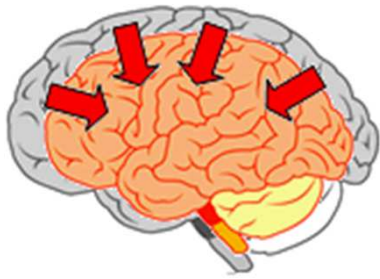


各認知症の特徴的な症状の有無、神経症候の有無、画像診断

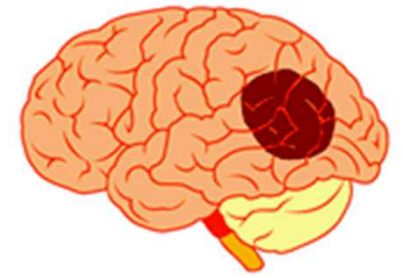





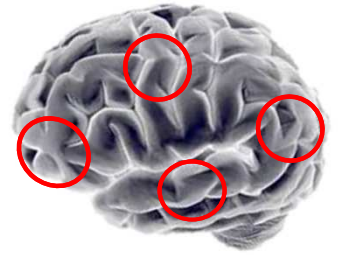
アルツハイマー型認知症
レビー小体型認知症
前頭側頭型認知症
血管性認知症など





代表的な認知症と薬物治療

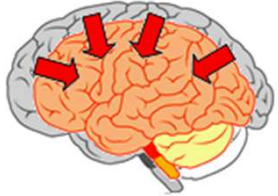



認知症	変性性認知症			血管性認知症
	アルツハイマー型	レビー小体型	前頭側頭型	
障害部位	 頭頂葉 側頭葉	 後頭葉	 前頭葉 側頭葉	 様々な部分に 起こるが、 前頭葉が多い
特徴的な症状	記憶障害 見当識障害 物盗られ妄想	幻覚、幻想 パーキンソニズム	人格変化 異常行動 滞続言語	歩行障害や 尿失禁が 早期から出現
脳内ACh	↓	↓	→	↓~→
ChE阻害薬	効果あり	効果あり (アリセプトのみ)	効果なし	症例により効果 は異なる

4種全て

1種のみ

段階によって使い分ける薬の使い分け (アルツハイマー型)

進行度				
治療薬	商品名	軽度	中等度	高度
	アリセプト®			
	レミニール®			×
	リバスタッチ® イクセロン®			×
	メモリー®	×		

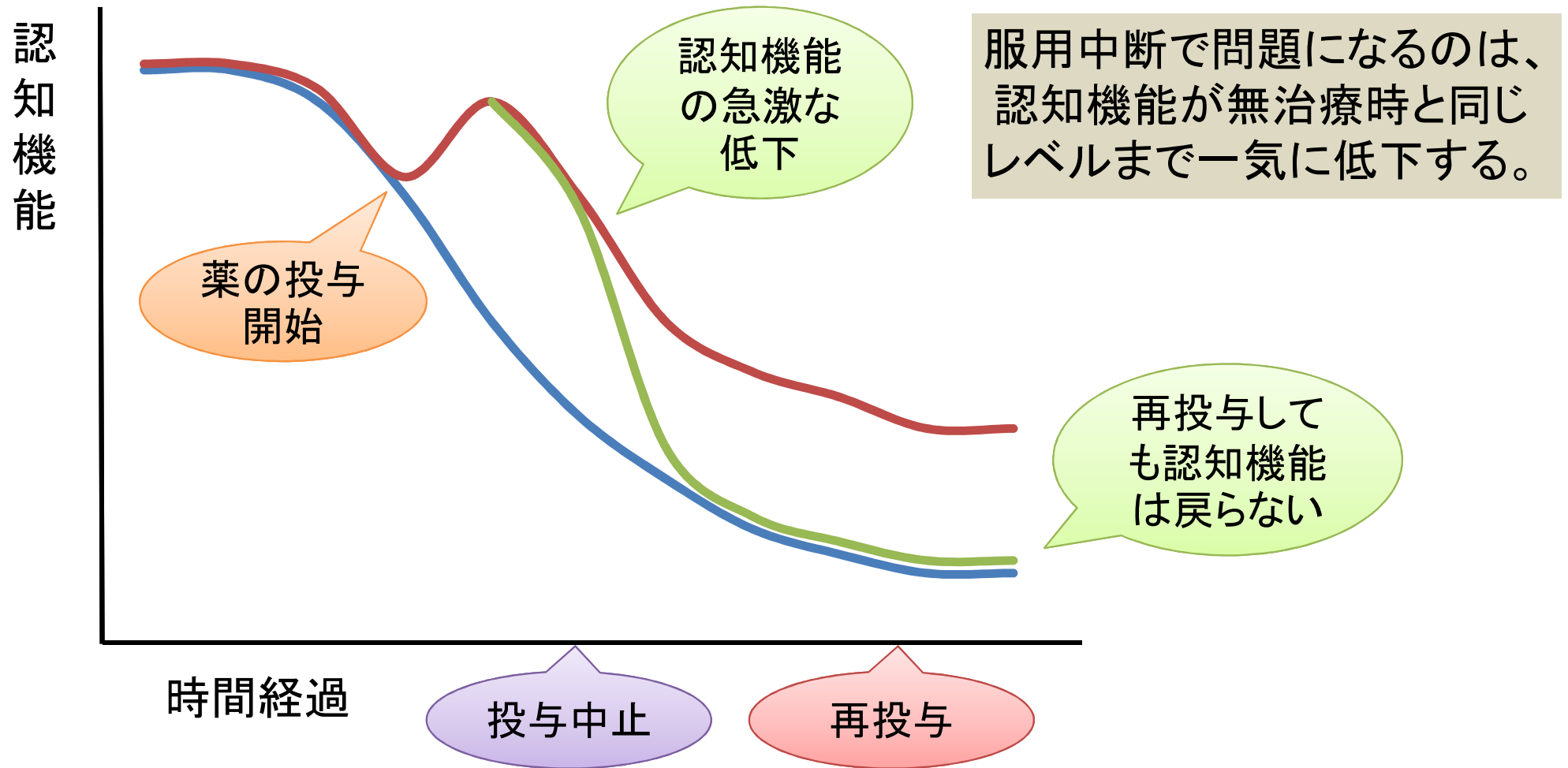
軽度: 物のしまい忘れや置き忘れがある。簡単な指示には対応できる。

中等度: 最近の大きな出来事を忘れる。会話が噛み合わない。

高度: ほとんどの記憶がなくなる。表情が乏しい。全面的な介護が必要。

服用継続の必要性

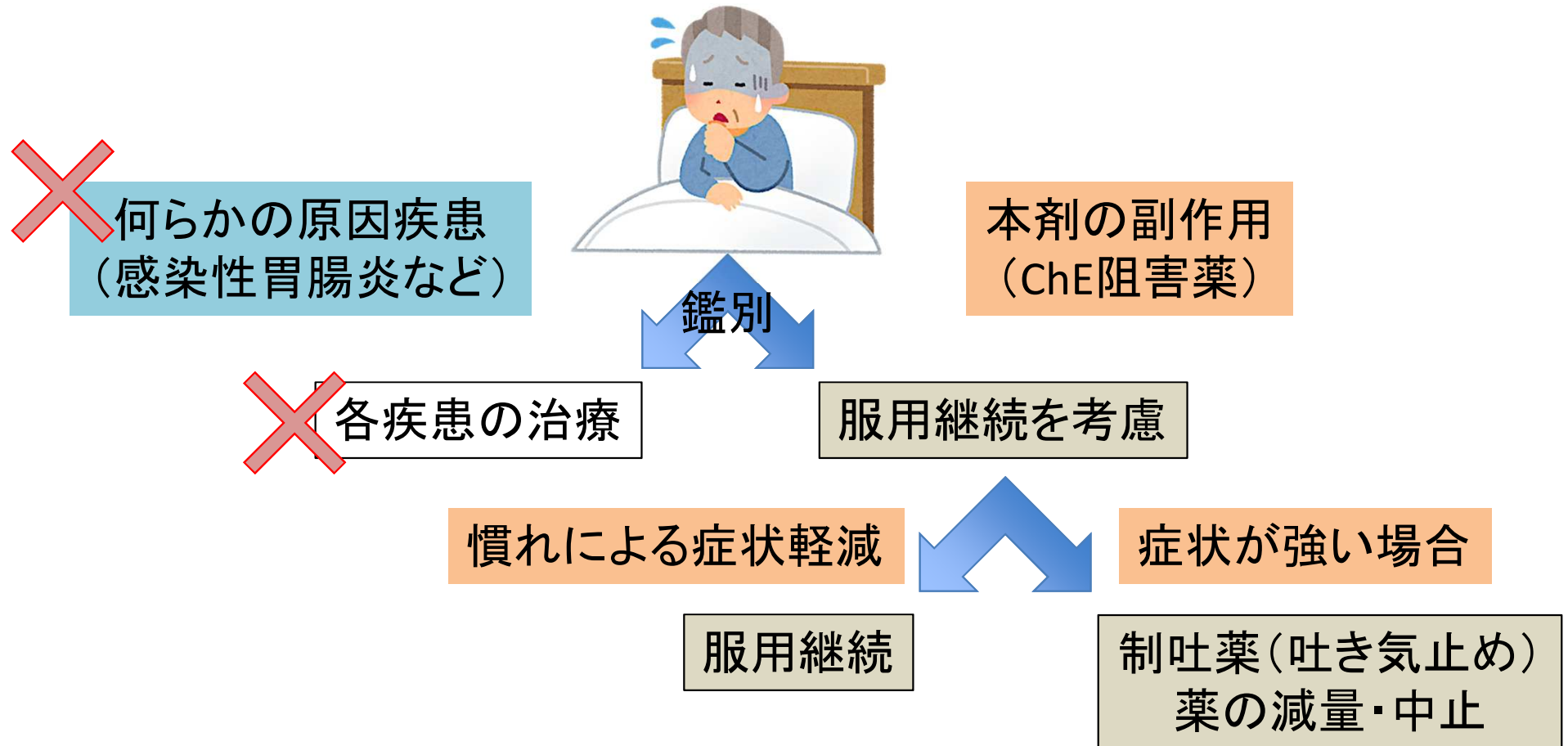
(服薬中断で進行が早まる)



その後服用を再開しても、服薬中断前の認知機能のレベルに回復することはない。

服薬継続を妨げる副作用

コリンエステラーゼ阻害薬（ChE阻害薬）の服用継続を妨げる副作用に、**食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、下痢などの消化器症状**があります。



服薬開始時、増量時に出現しやすい。服用し続けると慣れによって症状が消える

興奮を抑えるメマリー®の役割

メマリー®は記憶障害、見当識障害、物盗られ妄想の進行を抑制する他、興奮や焦燥感、攻撃的な言動といった**活発的な周辺症状**を抑えます。



NMDA受容体拮抗薬(メマリー®)の代表的な副作用としては、**めまいや眠気、意欲・食欲低下、口数の減少**などがあります。



このような症状が生じた場合は薬を服用する時間を変更したり、投与量を減らすなどして調節します。

また、めまいや眠気によって転倒しやすくなることに注意し、車の運転など危険を伴う機械の操作はやめましょう。

活発な周辺症状が落ち着いてきたらChE阻害薬が併用される場合があります。



新しい認知症治療薬の開発

認知症の患者数は2025年には700万人を突破、65歳以上の5人に1人が認知症になると予想されています。

現在、治療は薬物療法とリハビリテーションが主体ですが、認知症に関わる治療薬は日々研究され、新しい薬が登場しつつあります。

認知症の治療薬は、日々研究が進んでいます

認知症について国内外の多くの研究者が原因究明と治療法開発に取り組んでいます。主要4種の認知症のうち脳血管性認知症は脳梗塞等の血管障害が原因と考えられている為、血管障害に対する薬がよく処方されています。

その他のアルツハイマー型・レビー小体型・前頭側頭型の3つにおいては下記の様なタンパク質の蓄積が原因の1つだと考えられています。

認知症の種類	原因物質
アルツハイマー型	タウ・アミロイドβなど
レビー小体型	レビー小体・αシヌクレインなど
前頭側頭型	TDP-43・タウなど